

船場人

SEBAJIN

今日からあなたも船場人
船場ガイドブック
2024

集英地域活動協議会
船場倶楽部



特集

職人 船場の 人の



ようこそ船場へ

船場は豊臣秀吉の壮大な都市計画の中で誕生し、長い歴史の中で栄枯盛衰を経験しながらも常に大阪の経済や文化の中核を担ってきました。昔ながらの整然とした格子状の街路を保ちつつさまざまな先進的なまちづくりも進んでいます。歴史と伝統が息づく泰然たるまちなみの中で今を生きる人々の活気ある営みにも出逢えます。そんな船場をよりよく知っていただくため私どもは毎年このガイドブックを制作しています。今回はメインテーマを「**船場の職人**」としました。

さあ、今日からあなたも船場人。このガイドブックを手に船場のまちを散策し、その魅力と素顔を肌で感じていただければ私どもにとってこれに勝る喜びはありません。

集英地域活動協議会 船場倶楽部

特集 船場の職人

ずらり並ぶステンレス製のタンク。ここは、船場の地で2023年に本格始動したビール醸造所。平日の朝、ビール職人が1人、熟成タンクに向かっていた。

さて、今号のテーマは「船場の職人」。南北2.1km、東西1.1kmの船場のエリアに、どんな職人がいて、何を考え、どんな仕事をしているのだろう。そして船場への思いは。

「現代の名工」と称される椅子張り職人は言う。「技術は、1+1=2のように計算できるもの。技能は、勤とコツ」だと。また、この道65年の履物卸商で鼻緒をすける、ヘラン職人は言う。船場で仕事を続けるうえで大切なのは「ここにしかないものを作る」と。

さあ、船場の職人たちは、どんな勤とコツで、何を作り、どんなサービスを提供しているのか、ご紹介しよう。



「船場ビール工場」の醸造所は、堺筋本町「本町1」交差点南東角のビルの地下。仕込みは、工場長である中井あかねさんの仕事。



美しさを生む

バイオリンの美しさは、その形よりもその音色。美しい音を生み出すのは木、職人は木の音を聞く感覚が優れている。優れた宝飾は肉眼だけでなく、ルーペで覗いても美しい。

バイオリン工房クレモナ 弦楽器製作者 岩井孝夫さん

10秒で決めた二生の仕事

幅十数cm、長さが50cmほどの板をノックするように叩くと繊細で余韻のある音が返ってきた。岩井孝夫さんが手にするのはイタリア産の唐檜、アペーテロッソ。バイオリンの表板につかう最良の素材といわれる。

「一番大切なのは木工技術よりも材料選び。完成して鳴る良い音がイメージできるかどうかです。名工といわれる職人は、この感覚が優れているでしょう。名器を寸分違わず再現しても素材が違えば別物です」



表板に使うアペーテロッソ(手前)は、北イタリアのドロミテ産。標高1,500~1,800mあたりに育つ木を使う。師匠のジョバツタ・モラロッシー氏の山から師と一緒に伐採した。

そう話す岩井さんが高麗橋のビル1階に工房を開設したのは2020年9月。京都の円

町に生まれ、高校時代は自転車競技選手としてインターハイで銅賞を獲得したといい、大学からの勧誘もあった。しかし、両親の反対で親類が経営する大阪の室内装飾会社で働き始める。転機は20歳の頃。押し入れにあった兄のギターを引っ張り出して弾

いているうちに自分で作りたくなり、長野県にあるギターメーカーへ。修業中に機会があつてバイオリンの製作現場に足を踏み入れた瞬間、その光景に魅了され、「一生をかけるものが見つかった」と直感した。

「10秒ほどで『これを仕事に』と決めました」と岩井さん。

船場に来たのは自然の流れ

「僕は思い立ったら行動に移すのがすごく速い」。その言葉通り、長野を出て大阪の楽器輸入会社「丸一商店」などでバイオリン製作を学び始め、1年後の1998年にはイタリアに渡る。3人の親方の元で修業を重ね、国立パルマ音楽院のバイオリン製作科を1987年に卒業、同年、名器ストラディバリウスの故郷、バイオリンの聖地と呼ばれるクレモナで工房を開業した。1992年に拠点を日本に移し、チャイコフスキーコンクール・バイオリン製作部門で最優秀音響賞を受賞するなど実績が国内外で評価されている。

現在、古民家を再生した枚方市の自宅にも工房があり、長年自然乾燥させた材料から、板を切り出す作業などは自宅の工房で行う。「高麗橋への出店は自然の流れです。大阪はイタリアに似た陽気なパワーがありますし、特に船場は建物も洗練されていてクラシック愛好家も多い。バイオリン工房には理想の場」。イタリアで育んだ感性が船場のまこと絶妙なハーモニーを奏でている。



楽器を削ったり、ニスを塗ったりする細かい作業は高麗橋の工房で行う。製作楽器は工房でのみ販売。
バイオリン工房クレモナ 高麗橋工房
高麗橋4丁目7-5 淀屋橋三共ビル102
14:00~18:00 月木休
06-6203-3334 map 1



「気軽に試奏に来てください」と岩井さん。試奏楽器はバイオリンのほか、ピアノ、チェロ、コントラバス、マンドリンなど。各種楽弓も常時ある。



いわい・たかお 1954年、京都市生まれ。81年から12年間イタリアで修業。87年パルマ音楽院バイオリン製作科卒業。92年に帰国し京都府亀岡市で工房を開業、95年から高槻市を拠点とし、2013年枚方市に移転、20年高麗橋に工房を開く。多数の楽器製作コンクール入賞。

アルテモード 代表ジュエリー職人 丸川正剛さん

宝飾品のプロが集まる南船場で

フルオーダーのハンドメイドジュエリー工房「アルテモード」。代表の丸川正剛さんは、ジュエリーすべてのパーツをイチから手づくりで仕上げる事ができる、いまや全国でも数少なくなった熟練職人の一人だ。2004年には貴金属装身具国家検定一級技能士を最短期で取得。翌年には一級技能士全国競技大会において、当史上最年少の29歳でグランプリに輝き、「アルテモード」を設立。一躍注目を浴びた。

丸川さんは子どもの頃からものづくりが好きで、大学では金属加工を学んだ。卒業後はジュエリー専門店に就職したが、数年で退職して父の丸川隆英さんが営む宝飾店へ。「父がこの仕事をしていることは知っていましたが、業界で有名な職人だったことは一緒に働いてから知りました。技術は目で盗めという方針で、手取り足取り教えてもらうことはなかったですね」

丸川さんが工房を構える南船場は、東京の御徒町とならんで、



まるかわ・まさたか 1976年、大阪府生まれ。大阪芸術大学金属工芸学科卒業。ジュエリー専門店勤務を経て、父の隆英さんが営む「ジュエル丸川」へ。2004年に貴金属装身具国家検定一級技能士取得。2005年全国大会でグランプリを受賞し、「アルテモード」設立。2014年「なにわの名工」を受賞。

宝飾メーカー、金属パーツやルース(宝石)などの業者が全国から集まる西日本最大の宝飾問屋街。東大阪市に工房を持ちながら、父の隆英さんが1995年に第2工房を船場に持ったのも、業界の中で連絡が取りやすかったからだという。

「職人は基本的に閉じこもって一人で仕事をやるんですが、父の時代から今に至るまで、私たちは定期的に南船場会館に集まって技術者同士で情報交換をしています。20代から70代まで世代の幅も広く、全員が職人なので和気あいあいとした雰囲気。ものづくりのまち、船場ならではの良さですね」と丸川さん。



「とにかく、きっちりと作ること」が丸川さんのモットー。高度な技術と手間を惜しみなく注ぎ込み、マネのできないものを作り出す。その作品は、百貨店の外商担当者の間でも注目のマト。数cmのペンダントトップに1cmほどのミツバチがいるが、その表面は微細に毛羽立っている。

芸術の域に達する超絶技巧

最近の宝飾品は、同じ物をたくさん作って安く売る量産品と、芸術の域に達するほどの超絶技巧を凝らした一点物のハイジュエリーに二極化する傾向があるという。丸川さんの手から生み出されるのは、もちろん後者だ。

「作るのが難しく他社で断られたものを依頼されることもあり、仕事はますます増えていきます。私には直接の弟子はいませんが、若い人に仕事を請け負ってもらい、検品してから納品するという方法で後継者の技術力を育てています」

丸川さんのように、さらなる高みを目指すクリエイターにとっても、まちの人脈から受ける刺激は製作のポテンシャルを高めている。



南船場の工房は、3人の職人とシェアしている。ここを訪れるのは同業者のみ。個人のオーダーについては東大阪のショップで対応。
アルテモード ARTE MODO 工房
南船場3丁目1-7 日宝東心斎橋ビル405
06-4400-1271 ※営業時間は要問い合わせmap 2



丸川さんのこだわりは徹底しており、素材となるプラチナの角棒から製作する。CADも導入しているが、デザイン段階でのみ使い、わざわざそれを手作業で再現する。



洋服を作る

船場には企業も多く、スーツで働く人も多いまち。数あるテーラーの中でも、いま話題の仕立て職人に登場願った。自ら「叩き上げ」と称する女性2人は手づくりの楽しさを忘れない。

サルトリア・ラファニエロ代表 サルト

東徳行さん

ナポリの風格と日本の緻密さ

東さんが船場ビルディングの一室に、店舗兼工房「サルトリア・ラファニエロ」を構えたのは2017年。サルトリアとは、イタリア語で仕立て屋のこと、サルトは仕立て職人を指す。ナポリには多くの工房があり、熟練の老職人が手縫いでスーツを仕立てている。

「ナポリスーツは、やわらかなラインで体にフィットしながらも適度に余裕があって、軽い着心地が特徴です」と東徳行さん。東さんの作るスーツは、イタリアの色気をまとった風格と、日本人らしい緻密で丁寧な手縫いの

仕立ての良さを併せ持つ。完成度が高く、こだわりの洋服好きから熱い注目を浴びている。

大学卒業後、婦人服メーカーに1年勤め、大阪のスーツファクトリーで7年間勤務。2010年、ほとんどの工程を手縫いで仕上げるスーツ仕立てに魅せられ、知人から紹介を受けて、ナポリで三本の指に入るとされるサルト、アントニオ・パスカリエツロに師事。日本で、手縫いの特徴とする仕立て職人として独自の活動を開始、研鑽を積み、セレクトショップのテーラーを務めた。

船場を日本のサヴィル・ロウに

帰国して7年、納得のいく服づくりの拠点となる場所を探していた時、東さんが出会ったのが、船場ビルディングだった。一目で「自

分の店を開くならここだ」と直感したという。「ラファニエロ」は師匠から授かった名前。屋号はその名に決めていた。「どういう環境で作るか。洋

分の店を開くならここだ」と直感したという。「ラファニエロ」は師匠から授かった名前。屋号はその名に決めていた。「どういう環境で作るか。洋



接客、採寸、打ち合わせから仮縫い、中縫い、納品まで、洋服が出来上がるまでの全工程を東さんが手がける。直線以外は手縫いで立体感を意識して作り上げることで、ほどよいゆとりと品格を兼ね備えた一着が仕上がる。

服づくりでは、それがとても重要ですよ」と東さん。「船場は面白いまち。現代的なビルや高級マンションがあるかと思うと、レトロビルもある。建築博覧会のように歴史や文化が共存していて、インスピレーションをもらえます。大阪の中心に位置し、ビジネス的にも有利です」
店名や東さんの名前前でネットを検索すると、海外のファッション情報サイトがヒットし、熱烈なファンによるクチコミがあふれている。東さんはネットの普及で世界が近くなった新しい時代だからこそ、メイド・イン・ジャパンの古き良きイメージを、さらに広げられるのではないかと考えている。
「船場を、ロンドンのサヴィル・ロウのような、日本のスーツの聖地にしたいですね」と大きな夢を語ってくれた。



ひがし・のりゆき 1979年、広島県生まれ。大学卒業後、婦人服メーカー企画を経てスーツファクトリー「リングチャケット」に7年勤務。ナポリのアントニオ・パスカリエツロに師事。セレクトショップ「ストラスブルゴ」のインハウステーラーに。2017年、船場ビルディングに「サルトリア・ラファニエロ」を開業。東京の南青山にもサロンを持つ。株式会社ラファニエロ代表取締役。

株式会社 エイム・ローズ 代表取締役 テーラー

佐藤恵美さん

取締役 テーラー

高橋美香さん

まちの雰囲気につかれ南船場に

南船場のビルの一室にテーラーを構え、また、洋裁教室を船場、梅田、三宮で展開する「エイム・ローズ」。ブランド名は、EYUO 志す、EYUO 二ッバラという意味。

「志を持って働く人に、私たちの作った洋服でバラ色の人生をお届けできたら、という気持ちを含めています」と、佐藤恵美さんと高橋美香さん。

2人が出会ったのは、有名ブランドの洋服を手がける日本トップレベルの縫製工場。1ミリの狂いも許されない厳しい現場で修業を積んだ。「絶対に一流の職人になってみせる！」という強い思いで技術を身につけ、2007年にオーダーメイドの服を作るテーラーを立ち上げた。南船場に移転して現在の店を構えたのが2016年のこと。

「船場は繊維のまちで生地のお店がたくさんあり、交通アクセスもいい。そして、もう一つ重要だったのは、まちの雰囲気が大好きだったこと。ここなら自分たちの運氣も上がりそうな気がしたんです」

手づくりの洋服の楽しさを発信

「叩き上げの職人魂」を自認する2人によるテーラー「エイム・ローズ」は、船場でたちまち頭角を現す。現在の顧客は男性が7割、女性が3割ほど。お客さま一人ひとりの個性や雰囲気、体型の悩みなどをカバーでき、スタイルを良くみせる洋服が人気を呼んでいる。「自分自身もコンプレックスがあったので、

体にぴったり合う洋服を作りたい。クオリティの高さと、その人の目標に見合う服かどうか。この二つがテーマです」と高橋さん。「持つてきてくださった写真からパターンを起こして洋服を作ることもあります。正統派のスーツはもちろん、コンセプトカフェや



テーラー内でも軽微な作業を行う。芸能人やスターのきらびやかな洋服に憧れた少女時代。「一点ものの洋服を作るときは、その初心を忘れないようにしています」と佐藤さん。

メイドカフェの制服も作ります」と、佐藤さん。「洋服を着るのは楽しいし、作るのも楽しい。その原点を実感してもらいたい」と始めた洋裁教室では、自分の着たい服、子どもに着せたい服、愛犬の服、コスプレ衣装、ウエディングドレス……、生徒さんが作りたいと思ったものなら一切拒否せず、それぞれのやりたいことに対応するのがモットーだ。

さとう・えみ(左) 1982年、宮城県生まれ。婦人子供服製造技能士一級。株式会社aim-rose代表取締役。
たかはし・みか(右) 1983年、大阪府生まれ。婦人子供服製造技能士二級。株式会社aim-rose取締役。
2007年にテーラー「エイム・ローズ」、09年に洋裁教室「エイム・ローズ」を設立。16年、南船場の順慶ビルにテーラーを移転。洋裁教室を船場、梅田、三宮で展開。

「ファッションのまちである船場に本店を置きつつ、この場所から手づくりの洋服の良さを発信し、広げていけたら」と高橋さん。「繊維業の不況がいわれて久しいですが、毎日が楽しくなるような洋服を作り続けていきたい」と佐藤さんも力を込めて話してくれた。



エイム・ローズ aim-rose
南船場2丁目2-28 順慶ビル205
10:00~18:30 土日祝休
06-6261-7373 map 4
エイム・ローズ洋裁教室船場店
久太郎町2丁目5-6 ウェルピングビル4F
map 5



洋服づくりは主に別のアトリエで。「ポケットの位置を少し変えるだけで、スタイル良く見せることができます。お客様に一生ものの洋服をお届けしたい」と高橋さん。



SARTORIA RAFFANIELLO
淡路町2丁目5-8
船場ビルディング309
11:00~20:00
日休 ※完全予約制
06-4256-4210
map 3



写真中央が、東さんの師匠であるアントニオ・パスカリエツロ。ナポリのスーツ作りの極意を多くの弟子たちに伝えてきた親方だ。



足下のおしゃれ

靴磨き職人の店にも、鼻緒のすげ替え職人がいる店にも、遠くからでも人が訪れる。それは、他所では得られないサービスやここでしか買えない物があるから。そしてこの人にしかできない技が。

靴磨き専門店ザウエイシングスゴード職人

石見豪さん

船場ビルディングの靴磨き職人

靴磨きといえば、オーバールールの少年というのはい昔。モダニズム建築の船場ビルディングの一室で靴磨き店「ザウエイシングスゴード」を営むのはスーツ姿の石見豪さん。この職業を、英語ではシューシャイナーというそうだが、石見さんは「靴磨き職人」という呼び方が気に入っている。

スーツに身を包んだスタイリッシュな靴磨きが登場したのは一昔前の東京。大阪にも同様の店ができた。その頃、石見さんは30歳を目前にして、一生懸命勤めてきたサラリーマ



いしみ・こう 1982年、大阪生まれ。大手企業で10年営業職に就いた後、退職。2012年に靴磨きを始め、出張専門の靴磨き職人に。15年船場ビルディングで「THE WAY THINGS GO」をオープン。18年「靴磨き選手権大会」の初代チャンピオン、以降3連覇。現在は審査員。18年株式会社KINKOUを設立、代表取締役。



店も会社も妻の真希さんと二人で運営。ブランドコンセプトや企画などは、シカゴの美術大学を卒業した真希さんが担当。10周年を前にイベントなどを企画中。

ンの営業職にやりがいを感じなくなっていた。靴を磨くのが好きだった石見さん、本町に当時あった店を訪れ、そこで靴磨きを仕事にしようと思える。自分を追い込む意味もあり、退職。2012年1月、路上から靴磨きをスタート、9月には出張専門に業態を変える。すぐに保険会社から依頼がきて、以降、お客さんが次々につながり、スーツ店などと提携したり常駐したりするようになり。2015年イベントで訪れた船場ビルディングで、幸運にも空き室が見つかり、即入居を決めた。

ずっと向上心を失わない

石見さんは師匠について修業したわけではない。有名な職人の店を客として

に合わせて草履を仕立ててもらった。

「きちっと合わせよ」と船曳さん。どうやるのかと聞くと「甲を触つたらだいたい分かる」とのこと。「65年やってるからね」と。

65年つと履物卸し一筋。日本橋の履物問屋で40年働いた。若い時、小売店に行くとき、店主はお客の草履を上げるのに忙しく商談ができない。早くお客さんに帰ってもらいたい。自社の商品を売ろうと、見よう見まねですげるのを手伝い始めた。問屋の社長には「上げるひまがあつたら売らなさい」といわれたが、それは売らなさいということだった。

1999年社長の交代を機に独立し、呉服問屋も多い船場センタービルに店を持った。

着物が売れた時代はすでに遠く、心齋橋筋にあった老舗草履店も店を畳んで久しい。鼻緒をすげ替えるのは本来、履物の小売店の仕事だが、店は次々と姿を消し、客はすげ替えも

て訪ね、靴を磨いてもらい、技を盗んだ。そして実践で数をこなし、一足ずつ全力で取り組むことで技術を高めた。2018年には同年発足した一般社団法人日本皮革製品メンテナンス協会主催「靴磨き選手権大会」の初代チャンピオンに。それから3連覇し、現在は審査員を務める。さらに2021年の1年間、靴づくりの専門学校で、靴の構造や手仕事の技術などを学んだ。



2018年にブランド「KINKOU」を立ち上げ、オリジナル靴クリームを販売。22年オリジナルスーツブランドgodot、23年オリジナル靴mtoshoesの販売を開始。

「靴を見る解像度が増しました。修理も自信を持ってできます」という、その向上心は靴磨きでも変わらず「今になってさらに上手くなっている」そうだ。

その場磨き、即日仕上げは要予約。所要時間は40~60分。
ザウエイシングスゴード
THE WAY THINGS GO
淡路町2丁目5-8
船場ビルディング415
12:00~19:00 不定休
06-6203-0551 map 6

靴を磨くのはブラシと布、そして指。特徴は「鏡面磨き」といわれる鏡のような輝き。靴のつま先に指でワックスを何度か素速く薄く塗り、少量の水をつけた布で拭き上げると、驚くほどピカッと輝く。まるで魔法だ。

店名の「THE WAY THINGS GO」は、映像作品のタイトル。いわゆるピタゴラ装置のような芸術作品で、そのプロセスが面白い。わくわくする工程も楽しんでほしいという志を店名に込めている。



和装履物卸ちくさ 卸商 船曳龍之介さん

ここにしかないものを売る

船場センタービルで、通りがかりにこの人の姿を目にした人は多いだろう。いつもうつむいて草履や下駄をすげている姿を。

店の名は「和装履物卸ちくさ」。草履をすげているのは、オーナーで店主の船曳龍之介さん。卸商だから、問屋から仕入れて小売店へ売るのが商売。しかし同ビルの多くの店と同様、一般消費者に卸価格で小売りもする。安くして良い品を求めて客が訪れる中、この店の客は違う。ここにしかない商品、ここにしかないサービスを求めてやってくる。

自分の足にびつたりのオリジナルの草履を作り、草履をすげ直してもらいに、修理をしてもらいに、そして、ここにしかない、足にやさしい草履を買いに。それはここに船曳さんがいるからだ。船場のほか、卸先である東京や名古屋の呉服店や履物店に年に2度ほど展示会に出かける。各地にファンが多く「ちくさのおっちゃん」として親しみを込めて呼ばれる、着物好きには知られた存在だ。

長年の勤でききさーつと合わせる

棚に重なるように並べられた多くの草履の台と鼻緒。お客さんは好きな台を選び、次に鼻緒を選ぶ、そして船曳さんの前に座って、足



ふなびき・たつのすけ 1942年、兵庫県生まれ。履物問屋街、日本橋の履物問屋で40年勤務。1999年独立し、船場センタービルで「和装履物卸ちくさ」を開業。「ちくさ」は船曳さんの故郷、兵庫県栗原市千種町に由来。2016年足にやさしい草履「キャメルクラッチ」を開発し販売。



織りや染めの帯などから制作したオリジナルの鼻緒を持ち込まれた下駄にすげる。持ち込みは可能だが、履いている草履や下駄の修理はお断り。

修理もしてもらえない。

「直しは、やらなしゃあない」。船曳さんは困った人を放っておけないのだ。足にやさしい草履もそんな気持ちから生まれた。足が悪く痛くて草履が履けない、そんな足でも履ける草履を考えてもらえませんか？とお客さんに頼まれた。台に低反発クッション材を用い、足裏に沿ってカーブをつけ、試行錯誤を繰り返して、2016年オリジナル草履「キャメルクラッチ」が、続いて「ヴォルケ」が誕生。これがヒットした。船場で商売を続けるのに大切なことは、と尋ねてみた。

「ここにしかないものを作る」と「ファンを増やすこと」そして「やさしいものは一切売らないこと」と、下駄をすげる手を止めて、答えてくれた。即答だった。



販売から修理までアフターサービスも万全。
和装履物卸ちくさ
船場中央3丁目3
船場センタービル9号館1階北通り
10:00~17:30(土は~16:00) 日祝休
06-6252-6050
map 7



人気の「ヴォルケ」は約20種。素材、色、サイズ、高さが各種。下駄や草履の台は昔なじみの確かな職人から仕入れている。男性用の高級な南部畳表の台もある。



長いおつきあい

船場の老舗にも職人の姿がある。家と家の末長いおつきあいのための結納品という形を作る人。また、建築物の最小単位ともいえる椅子と長くつきあっていたために張り替えを行う人。いずれもベテラン職人。

株式会社澁谷利兵衛商店 代表取締役

澁谷善雄さん

七代目が築いた結納の基礎を継ぐ

「澁谷利兵衛商店」は、享保9（1724）年の創業。江戸時代から高麗橋のたもとで商いを続けてきた老舗だ。もとは鯉節を扱う店だったが、大正から昭和にかけて婚礼の様式が変化する機を読み取り、六代目の時代に結納品を扱う店に業態を変えたという。現在の主人である澁谷善雄さんは九代目。25歳でこの道に入り、結納飾りの作り方は当時大勢いた職人さんたちに混じって、見よう



しぶたに・よしお 1949年、大阪生まれ。1974年八代目の父・眞一さんが経営する株式会社澁谷利兵衛商店に就職。結納品の製作技術を身につける。1999年、九代目として代表取締役になる。2009年大阪市の橋名板設置事業で、地元町会長として「高麗橋」の銘板に揮毫。現在、東横堀川界隈の活性化を目指す「eよこ会」会長。

見まねで身につけた。今も店先で、紙を切り、折り、水引をかける。「結納の風習は地域によって異なりますが、大阪の結納の基礎は七代目が築いたといっても過言ではありません」。七代目はアイデアマンで、ホテルでの結婚式や披露宴での結納品の企画に注力した。そして船場の結納のルールができた。

船場のルールは大阪のルール。人生の節目に間違いがあつてはならない。澁谷さんであつたられば確かだと、厚い信頼を得た。「船場に会社や店を持つオーナーさんたちは、結納といえは必ずうちを指名してくださいました。今もお祝いなど金封を持っていく際にはご用命くださいます」

良い品がたぐく人と人の結びつき
店が最も繁盛したのは昭和40年代後半、その頃をピークに結納の風習は少しずつ変わった。結婚は家同士から本人同士の結びつきに、結納は簡略化され、注文は激減した。同時に、結納品の材料である良質の和紙や水引の職人も減り、素材を集めるのも困難に。「うちが全国で初めて金封に使った、松葉色の顔料を用いた和紙が生産中止になりました」

た。材料の確保が続いていくうえで「課題」という。そんな時代だが「結納品も船場文化の一つ」と、代々引き継いだ店と仕事を守り、職人の心意気でこの道一筋に頑張っている。「良いものを作る技術には自信があります。自分にできることをこれからも続けていくだけ」と、その技術を惜しまず伝授もする。「私の技を覚えたいという人は気軽に店にいらしてください」

紙の風合い、水引の立体感などは画面では伝わらない。が対面の理由はそれだけではない。「職種や立場を超えた横のつながりを大切にするのが船場の良さだからです」
人と人を末永く結ぶ仕事だからこそ、まちな人と人のおつきあひも大事にする。澁谷さんはまた東横堀川水辺再生協議会「eよこ会」の会長として、まちづくり活動を続けている。



結納品はすべて手作業による。作り方を記録した図や書物ではなく、すべて澁谷さんの頭の中に入っている。



船場の、ひいては関西の結納品の規範を作った「澁谷利兵衛商店」。金封、鯉節のバックなども取り扱う。



使うのはやわらかな感触の檀紙。紙庖丁で切る。水引は細い紙のこよりで出来ている。一度ほどくと糊が落ちるため、二度とは使えない。鮎結びで水引をかけ金封が出来上がる。

澁谷利兵衛商店
高麗橋1丁目3-18
9:00~18:00(土は~16:00)
日祝休
06-6231-7131 map 8

有限会社モリス工芸社 椅子張り職人

森下明久さん

令和6年春「黄綬褒章」受章

椅子張りとは、椅子の木枠などにクッション材を入れ、布や革の生地を張って、椅子を完成させる作業のことをいう。「ぴんと引っぱって施工するから、張りの字をつかいます」と森下明久さん。生地を、船の帆を張るように外側へ引っぱり内側に巻き込む。もちろん作業はそれだけではない。

たとえば張り替えなら、元の生地をめくるところから始まる。木枠に角やざらつきがあれば、生地が傷む。そこでペーパーをかけるという手間を森下さんは惜しまない。「ちょっとでも長持ちするように」。それが森下さんの一番大事にしていること。ミシンもひと手間多くかける。もう一つ大事なことは「座り心地」だ。クッションにウレタンフォームを敷く際も、どの硬さがふさわしいか厚さはどうか、いくつかのウレタン材を組み合わせて試す。木枠に取り付けたら今度はハサミで角を取り、形を微調整する。

「当たり前のことをしていただけ」と森下さんはいうが、量販店の椅子にそのひと手間は無い。張り終わったら手間は目に見えない。しかし、そこで手を抜くことはしない。

椅子張りには国家検定があり、該当する職種は「家具製作（いす張り作業）」で森下さんは

一級技能士。これまで数々の表彰や受賞を重ね、2024年「黄綬褒章」を受章した。
椅子張り職人は三代目
社名「モリス工芸社」は、19世紀英国のデザイナー、ウィリアム・モリスにちなんだそう。命名したのは森下さんの祖父、武市さん。阿波座で修業し、戦後、現在の博労町へ。二代目は父の恒明さん。だが、森下さんが父親と共に働くことはなかった。大学卒業後、内装の間屋で3年勤め、父親の知り合いの椅子張り職人の元で修業を始めて1年足らず。急に恒明さんは病気で亡くなった。3年ほど修業したら一緒に働くつもりだったが、それは叶わず、会社を継いだ。半人前の森下さんは、組合の同業者や父のライバル的な職人に



この日張り替えた椅子のクッションは、ウレタンフォーム素材を3種組み合わせた。最下部中央はややハード、全体をソフトな素材で包む。四隅は特に生地を強く引っぱって、留める。



も教えを請い、技能を高めていった。初代の得意先は大手ゼネコン、二代目の得意先は内装業者。多くの同業者が東大阪で大きな工場を持ったが、ミナミや北新地の店舗が仕事場だから、船場は立地が良い。工場は必要ないと元の場所に留まった。現在の仕事は代々受け継いだホテルの椅子のメンテナンスや、椅子張り技術を応用した劇場の扉、チャイルドルームの衝撃吸収・防音の内装、リハビリ器具やスポーツジムのクッションなど幅広い。

もりしたあきひさ 1963年大阪生まれ。有限会社モリス工芸社 取締役社長。2012年「なにわの美工」、20年「現代の美工」表彰。24年黄綬褒章を受章。15年大阪椅子張技能士会を発足し、会長として椅子張技能士と業界の発展に尽力。厚生労働省ものづくりマイスター、全技連マイスター会大阪府支部会長、職業訓練指導員。

森下さんに弟子はいないが、技能士会をつくってノウハウを教えているほか、ワークショップの生徒からは二級技能士も生まれた。外弟子は数多い。

「椅子を買い替えようかなと思ったら、一度張り替えをご検討ください。ご相談に応じます」と森下さん。
モリス工芸社
博労町3丁目1-15 06-6251-3764
※現場に出ていることが多いため、来訪の場合は要問い合わせ
map 9





船場に新風

ここ最近、これまでの船場で見かけなかった、新しいタイプの仕事に取り組み職人が現れた。1人はビール職人、1人は活版印刷職人、そしてもう1人は大工。古くて新しい取り組みに、乞うご期待。

有限会社中井レストラン企画 代表取締役

中井深さん

「船場ビール工場」工場長ビール職人

中井あかねさん

堺筋本町の地下に工場

堺筋と本町通の交差点南東角にあるビルの地下へ続く階段を降りると視界が明るく開けた。約50坪のスペースの一角で8基のタンクが銀色の輝きを放つ。「船場ビール工場」は2023年2月にオープンしたクラフトビールの醸造所。



なかい・ふかし 1955年大阪府生まれ/なかい・あかね 1988年同 船場ビール工場は日本地ビール協会のジャパン・グレートビア・アワーズ2024で金賞の「ベルジャンブラウ」など3種と期間限定のビールを製造・販売。

「コスト面では郊外のほうが有利でしょうが、船場の地にこだわった」。そう話すオーナーの中井深さんは大学の電子工学科を卒業したが、「人と関わって何かをしたい」と飲食業界へ。1985年に淀屋橋で洋風居酒屋を独立開業し、これまで大阪市内で計10店舗を立ち上げてきた。

父娘で醸す活性化への思い

ビール専門の講習会で、土地ごとの風土や歴史に根ざしたベルギービールの多様性に魅了され、店を出すビールはベルギー産にシフト。現地の醸造所を50カ所以上巡り、ベルギービールをリスペクトした地ビール製造への思いが募っていった。

やがて「商人のまちとして400年の歴史がある船場の風土の潜在力を地域活性化につなげたい」と中井さんは、経営する店舗の一軒をビール工場として再生した。

工場長を務める次女、あかねさんは「当初、船場といわれても、どこなのかピンとこないくらいでしたが、父の熱い思いを知って一緒に盛り上げたくなりました」と振り返る。開業前から研修を重ね技術を習得、醸造作業の要として工場を支えている。

「バランスが良く飲み続けられるビール」を

目指しているという中井さん父娘。

「最近の船場は利便性などを重視して住み始める方が多いのですが、これまでの蓄積を地域全体で大切にしていけばユニークなまちになるはず。ビールでそんな意識の向上に貢献したい」

株式会社プレスマン 代表取締役 印刷職人

小西豊さん

「忘れられへん」出会いが転機に

アフロヘアーの下の眼差しを名刺に注ぎ、「僕がここに載せたいのは、その人なんです」と断言した。淡路町に活版印刷工房「プレスマン」を構える小西豊さんは高校時代から家業の印刷に関わり「他人の釜の飯も食ってこい」という父親の勧めで別の印刷会社で働いたこともある。しかし営業先で聞かれるのは納期と値段のことばかり。「面白くない」という気分が募っていたころ、たまたま活版印刷の展示会に足を運ぶ機会があり、主催者の一人と交換した名刺が転機になった。

原版のインクが紙に押し付けられて生み出



船場ビール工場 週4回程度、立ち飲みスタイルの直売営業も。店休日とはX (@sembabeer)などで告知。本町1丁目7-1 三星本町ビル B1 18:00~21:00(L.O.20:45) 基本火日祝休 map 10

される独特の凹凸。「忘れられへん」。印刷を仕事にしてきたが、それまで触れたことも見たこともない活版印刷の名刺が小西さんの胸にそんな衝撃的な気持ちを引き込んだ。

路面店でいろんな人を迎える

この思いを広く外に向かって伝えたいと、活版印刷機を調達し、約1年の準備期間を経て、2013年、30代半ばで西区京町堀に独立開業した。渡された人の心に突き刺さる名刺を作るため、何時間もかけて依頼主から話を聞いてデザインに反映する。紙にもこだわり1981年製の活版印刷機で1枚ずつ手作業で刷る。「忘れられへん」名刺の評判が広がり芸能人や政治家などからも注文が来る。

現在の場所に移転したのは2023年7月。「多くの方に知っていただくにはいい場所ですし、道路に面しているのいろいろな人が入ってくるのが想定外ですが、歓迎です」。その中には外国人観光客もおり「商売とは関係



こにし・ゆたか 1978年、大阪府生まれ。「印刷物で唯一、受け取りを拒否されないのが名刺」といい、人間関係の起点になる名刺の大切さを強調する。今後は広告やデザインなどの分野にも視線を向ける一方、今年(2024年)は漫才の「M-1グランプリ」にも挑戦。

なく、ちょっとでも楽しんで帰ってもらいたい」と英会話も学ぶ。活版印刷の枠を超えて、船場の新しい魅力の開拓者となりそうだ。

株式会社サカゲチワークス 代表 大工

阪口大介さん

川沿いの大阪らしさに魅せられて

東横堀川沿いのビルに事務所を構える工務店「サカゲチワークス」。同じ並びにある書店のリノベーションは、阪口大介さんの船場での最初の仕事だった。阪口さんの実家は寝屋川市の不動産会社。大学卒業後、工務店に就職したが、宅地建物取引士の資格を取り、リノベーション会社の営業を経て、物件の仲介とそれに付随するリノベーションに興味を持った。その後、実家の仕事を手伝いながら現在のスタイルに。並びの書店の場合は物件探しから、商品を陳列する本棚まで手がけた。

「その時、この辺りはすごくいいなと思ったんです。高速道路の架かっている川というのが、いかにも大阪らしくて。遊歩道に面し高低差のある地形も面白い。その2年後、現在のビルに空きができて、ここへ移りました」

型にはまらずまちと人とききあう

船場を拠点に定めてからさらに追い風が吹



さかぐち・だいすけ 1979年、大阪府生まれ。大学卒業後、工務店、設計事務所、リノベーション会社、実家が営む不動産会社に勤務。2014年、工務店「株式会社サカゲチワークス」を開業。不動産物件の仲介からリノベーションまでを一貫して行う、きめの細かい仕事がクチコミで話題に。

「人やまちとは時間をかけてじっくり深くつきあう」。その考え方に共感するお客さまは、意外なほどに多かった。新しい価値観を積極的に受け入れつつ、昔ながらのコミュニティも根強く残る船場の気風は、阪口さんのポリシーとも相性が良かったといえそうだ。



プレスマン 淡路町1丁目1-8 エイワビル1階 10:00-18:00 土日祝休 https://pressman.co.jp/map 11

サカゲチワークス 淡路町1丁目1-8 エイワビル1階 06-6210-3256 ※現場に出ていることが多いため、来訪の場合は要問い合わせ map 12

「仕事をこなすほどスキルが上がり、仕事をするのが楽しい」という阪口さん。現在、阿倍野区で製作中の民泊施設は、阪口さんの作品のショーケース的存在となる予定だ。



2024 MAP

船場ガイドブック

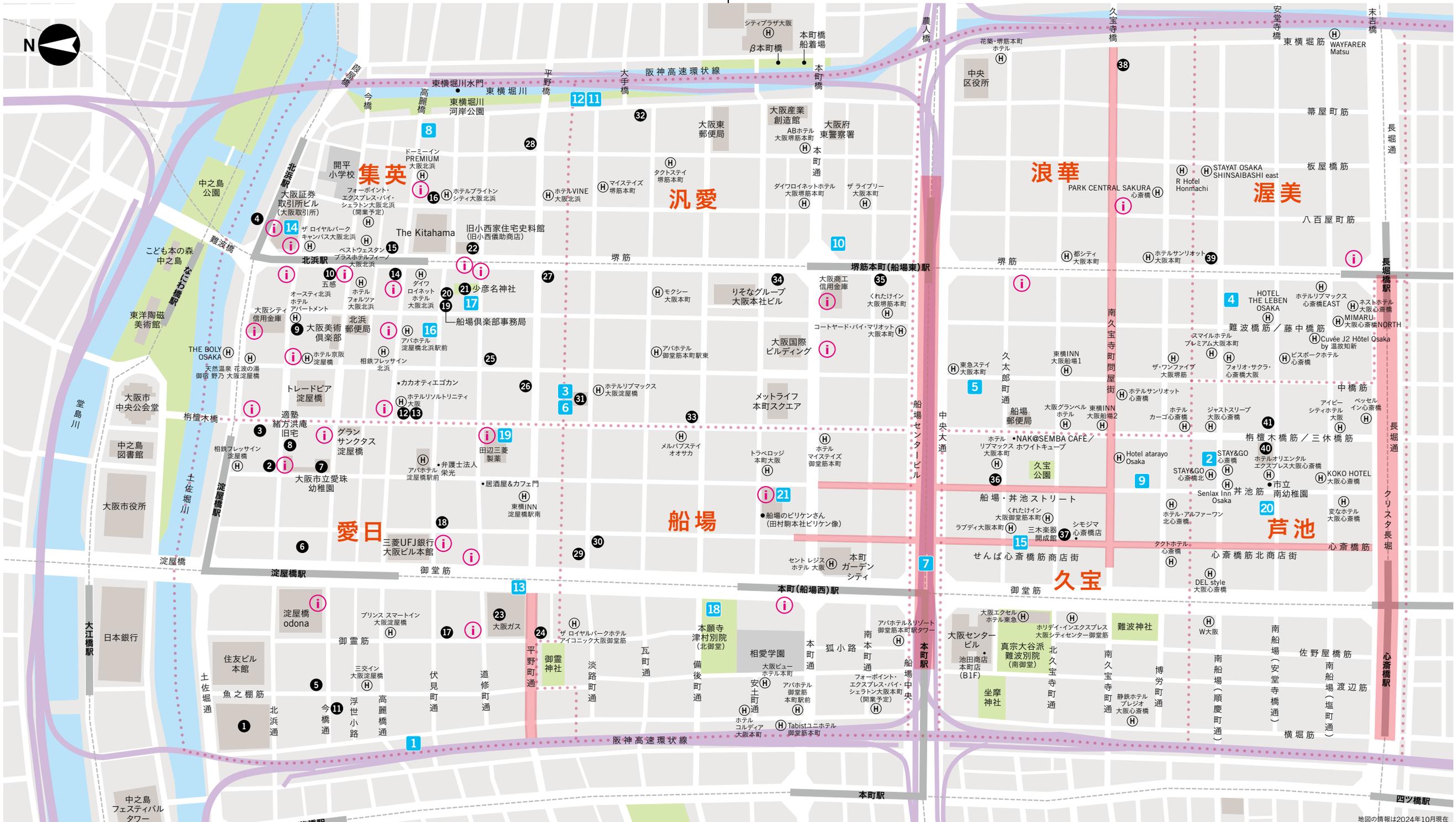
- 1~21 P3~P16 船場の職人/船場のイベント
- 連合振興町会区域
- 船場まちの案内板
- ホテル
- 公園・神社等
- 商店街



船場の近代建築

- 三井住友銀行大阪本店ビル
- 三共商事
- 吉田理容所
- 北浜レトロビルディング
- 大阪倶楽部
- 日本生命保険相互会社本館

- 大阪市立愛珠幼稚園
- 適塾
- 中村健法律事務所
- 新井ビル
- 今橋ビルディング (旧中央消防署今橋出張所)
- 旧大阪教育生命保険ビル
- 日本基督教団浪花教会
- 高麗橋野村ビルディング
- 三井住友銀行大阪中央支店
- 高麗橋トキワビル
- 銭高組分室(旧小西平兵衛邸)
- 芝川ビル
- 伏見ビル
- 青山ビル
- 少彦名神社
- 旧小西家住宅史料館 (旧小西儀助商店)
- 大阪ガスビル
- 北野家住宅
- 武田道修町ビル
- 小川香料
- 生駒ビルディング
- 三栄源エフエフアイ
- 清水猛商店
- 興和淡心ビル(旧板谷歯科医院)
- 船場ビルディング
- 岸本瓦町邸
- 綿業会館
- ハウザー堺筋本町駅前ビル
- 風蘭ビル(旧明治屋南本町ビル)
- 井池織維会館
- 三木楽器 開成館
- クツワ株式会社
- 堺筋倶楽部
- (旧川崎貯蓄銀行大阪支店)
- 大阪農林会館
- 原田産業



地域の皆さまとともに歩む信用金庫



大阪商工信用金庫
Shoko

〒541-0053 大阪市中央区本町2丁目2番8号
本部 TEL.06-6267-1636(代表)
http://www.osaka-shoko.co.jp/



“いい時代と、いい音楽のために”
三木楽器株式会社

1825年創業。音楽への探求を続け、音楽文化の発展とともに2025年に200周年を迎えます。

ピアノ専門店 三木楽器開成館

営業時間：10:00～19:00(水曜定休)
所在地：北久宝寺町3丁目3番4号
電話：06-6252-1820
WEB：https://www.miki.co.jp



国登録有形文化財

居酒屋&カフェ 門

門サロンではコンサート、落語会、講演会、クルーズなどの催しを年間を通して開催。夜の飲み放題コースはリーズナブルなお値段でご提供、(しめ)に名物「石焼きカレー」付き!

営業時間 11時～14時/17時～23時
土曜は貸切予約のみ 日祝休
電話 06-6231-8509
Eメール youtora813@gmail.com
住所 中央区道修町3-3-12



(株)シモジマ心齋橋店

文房具から包装紙、店舗用品、キャラクター雑貨まで約70,000点の幅広い品揃えを誇るお店です。すべて卸価格ですが、どなたでもご利用いただけます。是非一度お立ち寄りください。

営業時間 10時～18時半
定休日 不定休
電話 06-6252-4361
住所 中央区北久宝寺町3-3-8




**弁護士法人栄光
栄光綜合法律事務所**



迅速で、クライアントの視点に立った、
案件解決の戦略と戦術

企業法務・内部通報・相続などあらゆるご相談に対応いたします。

弁護士 梅本 弘 弁護士 池田佳史 弁護士 嶋津 裕介
弁護士 池野由香里 弁護士 森田 豪 弁護士 木ノ島雄介
弁護士 井上 彰 弁護士 吉本達哉 弁護士 河野加奈子

〒541-0044 大阪市中央区伏見町3丁目2番4号
淀屋橋戸田ビル2階
TEL06-4707-1251 / FAX06-4707-1252

協賛広告

船場ガイドブック2024に協賛いただきましたお店と企業です。
※広告に記載している休業日・営業時間などは変更される可能性があります。

道修町たなみん寄席

11月23日(土・祝)
道修町の田辺三菱製薬株式会社が主催する寄席。上方落語と関連したテーマの講演を通して、大阪の歴史や文化、社会風土を笑って学べます。
会場：田辺三菱製薬株式会社(道修町3-2-10 田辺三菱製薬本社3F) 19



主催：田辺三菱製薬(株)



南船場もちつき大会

12月1日(日) 11時～雨天決行
今年で9回目となる地域の恒例イベント。みんなでお餅をついて、一緒に食べよう!
会場：芦池グラウンド(芦池小学校跡)・南船場会館(南船場3-7-12) 20



主催：淀美地区地域活動協議会・芦池地域活動協議会

BILLIKEN CREATORS OSAKA 2025

2025年3月13日(木)～3月16日(日)
“ビリケンをアートに”“オーサカを元気に”するアートイベント第5弾。クリエイター100人の作品が展示・販売されます。
会場：田村駒株式会社大阪本社2階ホール(安土町3-3-9) 21

主催：ビリケンクリエイターズオーサカ実行委員会
Instagram:@billiken.jp




**【スノーマン ハーバリウム】
ワークショップ**

11月21日(木)～23日(土・祝)
11時～18時(最終受付17時)
古民家を改装したガラス瓶専門店、スノーマンのハーバリウムを制作しませんか?
会場：CuteGlass Shop and Gallery(伏見町2-4-4) 16

主催：日本精工硝子(株)
Instagram:
@cuteglass_shopandgallery



神農祭(例大祭)

11月22日(金)・23日(土・祝)
大阪の一年を締めくくる「とめの祭り」として賑わい、大阪市無形文化財(民俗行事)に指定されている少彦名神社の例大祭(神農祭)。道修町一帯に屋台が並びます。
会場：少彦名神社(道修町2-1-8) 17



Instagram:@sinnosan



COWDAY STREET 2024

11月23日(土・祝) 10時～21時
24日(日) 11時～15時
雪をテーマにした体験型イベント。めったに雪の積もらない大阪の街中で雪遊びやスノーボードの体験会、そしてプロスノーボーダーによるパフォーマンスをお楽しみください。
会場：(北御堂)浄土真宗本願寺派 本願寺津村別院(本町4-1-3) 18

主催：COWDAY実行委員会
Instagram:@cow_day_00
X(旧Twitter):@COWDAY2021




堺筋まちかど写真展

10月26日(土)～11月24日(日)
堺筋のまちの昔の写真を展示します。現存している近代建築だけでなく、写真からも堺筋の歴史や魅力を感じてください。
会場：大阪証券取引所ビル1階 アトリウム(北浜1-8-16) 14



主催：堺筋を考える会



キラキラ せんばイチョウ祭 & au PAY キャンペーン

11月1日(金)～12月1日(日)
昔から卸商で発展した商店街、11月はさらに“お得感”満載! au PAYポイントもこの商店街での11月の利用に限り大幅アップ。土曜中心にお楽しみイベントも。
会場：せんば心齋橋筋商店街 15

主催：せんば心齋橋筋商店街
共催：au PAY
Instagram:@sembashinsaibashi




船場博覧会2024

11月16日(土)～23日(土・祝)
船場の地域資源を活用してまちの歴史と文化を発信。写真展や各種セミナー、ふだんは入れない近代建築を会場にしたイベントなど、多彩なプログラムを催します。
主催：船場博覧会実行委員会




**Semba Event Information
船場のイベント情報**



御堂筋インフィオラータ2024

10月23日(水)～10月27日(日)
大地をキャンパスに花びらでアートを描く「御堂筋インフィオラータ」が今年は秋に登場! お気に入りの花絵をぜひ見つけてください。
会場：御堂筋(淀屋橋～本町)の沿道 13

主催：(一社)御堂筋まちづくりネットワーク・(一社)花絵文化協会
Instagram:@anne_midousuji
Facebook:@midousuji.biz



**生きた建築ミュージアム
フェスティバル大阪2024**

10月26日(土)・27日(日)
日本最大級の建築一斉特別公開イベント。秋の大阪で生きた建築たちがその扉を開きます。11回目の今回は170を超える建物等が参加予定! 公式ガイドブックは主要書店で発売中。
主催：(一社)生きた建築ミュージアム大阪
X(旧Twitter):@ikitakenchiku






あなたが夢見る
未来を目指して

あなたが輝く明日を、ともに
信頼で地域とつながる
大阪シティ信用金庫

本店/〒541-0041 大阪市中央区北浜2-5-4 TEL. (06) 6201-2881(代販)
https://www.osaka-city-shinkin.co.jp/

大阪府内に85店舗。大阪市内全24区に店舗を有する唯一の地域金融機関です。
※令和6年10月1日現在

BELOVED
STREET
MIDOSUJI

ずっと愛され続ける
御堂筋を。

大阪ガス

創業1888年
池田商店紳士服部 本町店

創業136周年を迎えた老舗の技術を 生かし、最新のスタイリングのスーツをお求めやすい価格でご提供しております。
特別価格 国産生地使用仕上り 6万円～
舶来生地使用仕上り 8万円～

営業時間 月～金 10時～18時 土 10時～15時
日祝日・第2、第3土曜休 電話 06-6252-7758
住所 中央区久太郎町4-1-3
大阪センタービルB1 (旧伊藤忠ビルB1)

選択肢をつくる。
希望をつくる。

さんでも選べるこの時代に、
まだ選択肢が足りない世界があります。
そこでは、上へ上へとつなぐ選択肢が生まれることが、
多くの人の希望につながります。
だから、田辺三菱製薬はつくりたい。
病を向きあうすべての人に、希望ある選択肢を。
この国でいかに長く生きてきた
薬づくりの力を生かして、
さらなる分野で、組みつけていきます。
そこに待っている人がいるのだから。

田辺三菱製薬
https://www.tanabe-pharma.co.jp/

**BILLIKEN
CREATORS
OSAKA
2025**

第5回ビリケンクリエイターズオーサカ

3.13 Thu
3.16 Sun
COMING SOON

新進気鋭のクリエイターが大集結!!!「アートな福の神」の作品展示 & 販売会

主催
ビリケンクリエイターズ
オーサカ実行委員会

共催
ODC
ocha energy center
TAMURAKUMA

協力
MEBIC

会場
田村駒株式会社 大阪本社 2階ホール

ART Project

大阪中央区久太郎町 3-2-11 船場エクセルビル2階 ホワイットキューブ

TATSUNO GROUP

GOKAN
五感 北浜本館

大阪市中央区今橋
2-1-1新井ビル
TEL.06-4706-5160

http://www.patisserie-gokan.co.jp

Cacaotier Gokan
Chocolat et Glace
カカオティエゴカン

大阪市中央区高麗橋2-6-9
TEL. 06-6227-8131

http://cacaotier-gokan.co.jp

NAK@SEMBA CAFE

毎週水曜日の午前11時から午後5時まで無農薬野菜やオーガニックな果物を販売しています。
2025年4月に開設予定の都市農園プロジェクトも進行中です。

@nakasemba_cafe
営業時間 10時～18時
(土日祝休み)

辰野株式会社 不動産事業部
開発チーム TEL:06-6263-2511
大阪市中央区久太郎町 3-2-11 船場エクセルビル1階

水曜ミニマルシェ開催中

大阪船場ロータリークラブは船場のまちづくりを応援しています

Rotary

大阪船場ロータリークラブ
The Rotary Club of Osaka Semba

tel. 06-6244-1008
e-mail. semba@cocoa.ocn.ne.jp

2023年12月 開平小学校 / 会員企業訪問授業

2017年7月 パリ島 / 小学校奉仕活動で訪問

《船場とはどんなまち》

豊臣秀吉による大阪城の築城に合わせて生まれたまちです。江戸時代には、水運の拠点として全国から人と情報を集め「天下の台所」、大正期には、繊維産業などの工業化を進め「大大阪」と呼ばれた大阪の中心地でした。

今も昼間は約20万人が集まる業務都心に変わりありませんが、商業・業務機能がキタとミナミへ集中するなかで、新しい都心「船場」の魅力が生まれつつあります。



《船場倶楽部の活動》

2000年初頭より船場のまちをげんきに作る、さまざまなまちづくり活動がスタートしました。2015年に連合振興町会、商店街、神社、法人企業、まちづくり団体からなる「船場倶楽部」が発足。まちの歴史・文化を引き継ぎながら、未来に向け魅力ある船場の姿を求めて、まちづくりに取り組んでいます。

会員：正会員(地域連合振興町会、商店街、まちづくり団体、法人企業) 84名
賛助会員(法人、個人)67名 (2024年9月現在)

一般社団法人船場倶楽部 事務局

〒541-0044 大阪市中央区伏見町2丁目2-3 伏見ビル1階
info@sembaclub.com www.sembaclub.com



船場ナビ 船場の情報をまとめて発信する「船場ナビ」

イベント情報や日常風景をウェブ・SNSで発信
まち歩きで使えるGPSイラストマップも公開中

船場ナビ 検索



船場ガイドブック2024

発行日：2024年10月25日

制作・発行：集英地域活動協議会、一般社団法人船場倶楽部

編集会議：岡崎秀俊、谷口康彦、千葉桂司、塚村真美、日比哲夫、三谷直子、米田佳代

デザイン：ソムラグラフィック イラスト：川口澄子 取材・執筆：植田朋子ほか

編集協力：株式会社ワークルム

この船場ガイドブック2024の制作にあたり

集英地域活動協議会が大阪市中央区地域活動協議会補助金を

船場倶楽部が公益財団法人東教育財団の地域文化事業助成を受けています

